

第28期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

稲波 修

このたび第27期に引き続き，第28期の北海道支部長を仰せつかりました北海道大学大学院獣医学研究科の稲波です。私は生命科学分野での非密封放射性同位元素等を中心に放射線管理業務に7年間にわたって携わってまいりました。何卒，よろしくお願ひ申し上げます。第28期の支部委員は前期から引き続き務められております安原優子氏（北海道大学農学部）に加え，今期から大内健司（北海道電力(株)），久下裕司（北海道大学アイソトープ総合センター），遠藤大二（酪農学園大学獣医学部）の諸

氏が加わりました。このように大きく委員のメンバーも代替わりいたしましたので，新鮮な気持ちで諸先輩方の助けを借りながら，支部長としての役割を果たしていきたいと思っております。

4月には新旧合同支部委員会と春の教育訓練を開催し，10月末には平成26年度放射線安全取扱部会年次大会（第55回放射線管理研修会）の開催を北海道支部が中心となり道民活動センター「かでる2・7」で予定しております。放射線管理者の交流として全国的なイベントですので，目下，北海道の放射線管理に携わる方を中心に実行委員会を組織し，成功を目指して，プログラム等の準備を進めているところです。また，例年に引き続き，日本原子力学会北海道支部主催の“原子力オープンスクール”と北海道地区大学等施設協議会での研究会への共催・協賛を予定しております。北海道という広い地域の中での組織運営の難しさも感じておりますが，道内に散在する放射線取扱主任者や放射線管理職員にとって必要な情報を発信し，アイソトープ利用と管理に対して相互理解を図ってゆきたいと思っております。

小さな支部でございますが，部会の将来を発展させられるよう努力してゆく所存です。道内の会員各位のこれまでも増したご協力とご支援を賜りますよう，よろしくお願ひ申し上げます。

（北海道大学大学院獣医学研究科放射線学教室）



（左より）安原，大内，稲波，遠藤，久下各委員

東北支部長に就任して

渡部 浩司

このたび、大槻勤 前支部長（東北大学電子光理学研究センター、現在は京都大学原子炉実験所）の後を受けて、第28期東北支部長を務めさせていただくことになりました渡部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私自身、東北の地に来たのが昨年からと、実績も経験もない若葉マークの支部長ですが、経験豊かなほかの支部委員の皆様にも助けてもらいながら、活発な支部活動を進めていきたいと考えております。委員は再任の河津賢澄氏（福島大学）、坂根正一氏（日立アロカメディカル(株)）、森山竜也氏（日本原燃(株)）に加え、今期より私のほかに阿部養悦氏（東北大学病院）、福島美智子氏（石巻専修大学）を新たに迎え、計6名で運営してまいります。

まだまだ右も左も分からないため、諸先輩方が築き上げてきた支部の活動を継続させていく



（前列左より）森山、渡部、河津
（後列左より）阿部、坂根各委員
（右上）福島委員

ことに精一杯ですが、新たな取り組みにも果敢にチャレンジしていきたいと思っております。

東北地区で放射線に関わる仕事をしている以上避けることができないのが、福島第一原子力発電所事故に関連した活動です。あの事故から既に3年が過ぎ、日本全体が少し落ち着きを取り戻しつつあるこの時期こそ東北支部の活動が重要になるのではないのでしょうか。支部活動として、福島第一原子力発電所の事故対応や支援など積極的な関わりを持てればと考えております。

部会員の皆様には、今後も部会員同士の交流を図り、管理技術向上の場を提供していく所存ですが、ご要望等ございましたら遠慮なくお知らせいただければと思います。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

（東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）

関東支部長就任に際して

井上 浩義

第28期の関東支部長を拝命しました慶應義塾大学医学部の井上です。東京大学大学院医学系研究科の鈴木崇彦先生から引き継がせていただきました。当支部は関東と称するものの関東1都6県のほかに、新潟県、長野県、山梨県を加えた広域の支部で、部会員数も各支部の中で最大です。

この大きな支部をまとめていくに当たり、私は支部委員の経験もなく、また、7年前まで九州支部において関東支部の状況を何も知らない身としては甚だ心もとないところがあります。しかし、経験豊かな下記の支部委員の先生方に助



(前列左から)五十嵐, 泉, 井上, 大登, 小幡, 片岡
(後列左から)佐々木, 佐藤, 高橋, 谷川, 梁田各委員
(右上) 飯塚委員

けていただき、当支部の活動を盛り上げていきたいと思っております。継続の支部委員の先生方は、飯塚裕幸氏（埼玉医科大学中央研究施設）、五十嵐敏美氏（東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター）、大登邦充氏（(株)千代田テクノ線量計測事業本部）、片岡賢英氏（慶應義塾大学医学部）、佐藤斉氏（茨城県立医療大学保健医療学部）、高橋克彦氏（獨協医科大学RIセンター放射線管理部）、梁田哲夫氏（日立アロカメディカル(株)）で、このたび新たに泉雅子氏（(独)理化学研究所仁科加速器研究センター）、小幡美貴氏（新潟大学大学院医歯学総合研究科）、佐々木博之氏（(株)日本環境調査研究所事業本部営業部）、谷川勝至氏（東京大学大学院理学系研究科）に加わっていただきました。

当支部の定例活動である教育訓練講習会の開催などのほかに、市民の皆様へ、放射線を科学的に知っていただく教育など、部会員の皆様と活動の足跡が残せるように尽力したいと思います。何卒、よろしく申し上げます。

（慶應義塾大学医学部化学教室）

中部支部長に就任して

柴 和弘

第27期に引き続き第28期中部支部長を引き受けることになりました。第27期の2年間は、初めてのことばかりで、かなり戸惑うことも多く大変でした。中部支部では年3～4回の支部委員会、見学会、研修会、教育訓練講習会（中部地区）、主任者試験問題解答例の作成（第2種 管理技術I）、定期講習会の講師派遣、年次大会の相談員派遣、それと、本部運営委員会出席などの活動をしています。前期では活動を覚えるため、各活動の連絡・調整・手配・準備等を自ら中心になって行ってみました。前述したようになりに大変でした。そこで、今期はできるだけ、支部委員の方に、担当していただくかと考えております。中部支部委員は、私を含めて8名です。加藤浩氏（三重大学）、小山修司氏（名古屋大学）、横山須美氏（藤田保健衛生大学）の3名は前期に引き続き支部委員になっていただいています。また、今期から新し



(前列左より) 小山, 柴, 横山
(後列左より) 小島, 三嶋, 矢永, 小須田各委員
(右上) 加藤委員

主任者 コーナー

く小島康明氏（名古屋大学）、小須田誓氏（愛知医科大学）、三嶋淳二郎氏（日立アロカメディカル(株)）、矢永誠人氏（静岡大学）の4名の方に支部委員として加わっていただきます。今期はこの8名で、頑張っていきますので、よろしくお願いたします。特に、見学会や研修会は会員だけでなく、一般の人たちにも参加していただけるように、タイムリーな企画や医療、薬品、生命科学、測定技術、機器、宇宙、地球、気候、食品等様々な分野での放射線利用や放射性同位元素計測をテーマにした企画を考えていきたいと思ひます。その時は、ほかの支部会員の皆様の参加をお待ちしております。最後に、平成27年度の年次大会は中部支部が担当します。たくさんの会員の方が参加したくなるような企画を用意しますので、是非参加くださるようお願いいたします。

（金沢大学学際科学実験センター）

近畿支部長に就任して

飯田 敏行

このたび、大河原賢一 前支部長（製薬放射線コンファレンス）の後を受けて、近畿支部長を務めさせていただくことになりました飯田敏行と申します。大阪大学超高压電子顕微鏡センター放射線発生装置等使用施設や、工学研究科・工学部放射性同位元素等使用施設の放射線取扱主任者に選任され、放射線発生装置と密封・非密封RIの安全管理に携わってきました。まだまだ知識経験とも不足ですが、精一杯役割を果たしていきたいと思っております。

第28期の近畿支部委員会は、継続委員である佐々木将博氏（先端医療センター）、谷康輔氏（(株)日本遮蔽技研）、松本敦氏（(株)コー



（前列左から）佐々木、矢鋪、飯田、小山、芳原
（後列左から）松本、鈴木、谷、大熊、鳥取各委員

ガイソトープ）、大熊浩志氏（日本メジフィジックス(株)）、鈴木健二氏（(株)日本環境調査研究所）、矢鋪祐司氏（日本たばこ産業(株)）と飯田の7名と、新委員の小山由紀子氏（滋賀医科大学）、鳥取和孝氏（(株)千代田テクノル）、芳原新也氏（近畿大学原子力研究所）の3名の合計10委員の構成です。全委員とも大いに張り切っています。

近畿支部の主な活動は、春季と秋季の放射線業務従事者のための教育訓練講習会、事業所内放射線障害防止教育訓練の講師派遣、放射線取扱主任者試験問題の解答例の作成、部会員のための見学会・研修会等です。これらの具体的な活動実施については、事前に支部委員会で検討議論をして行っています。

福島第一原子力発電所の事故以来、放射線・放射能の安全管理の重要性が社会に認識されつつあります。今が正に本“放射線安全取扱部会”の活動を活発にし、発展させる良い機会と考えています。部会員皆様のご協力とご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

（大阪大学大学院工学研究科）

中国・四国支部長に就任して

小野 俊朗

このたび中国・四国支部長を仰せつかりました岡山大学の小野です。これまで第26期と27期に企画専門委員会委員として、微力ながら務めさせていただいておりました。これでお役御免かと思っていたところ、思いもかけず中島覚前支部長の後を受けて支部長を務めさせていただくことになりました。

第28期は前期から引き続き、秋山浩一（愛媛大学）、北実（鳥取大学）、坂口修一（山口大学）、三好弘一（徳島大学）の諸氏に加えて、新たに小野と稲田晋宣氏（広島大学）が加わりました。支部活動としては一昨年度に教員を対象とした放射線セミナーを開催しました。昨年度も対象や開催方法等は変わりましたが、広島大学で開催しております。今後もこのような特徴ある支部活動を継続してまいりたいと思っております。

中国・四国支部は中国5県と四国4県で構成されています。部会員数はそれほど多くはありませんが、中国と四国は瀬戸内海を隔てて、さ



（左より）稲田、北、坂口、小野、秋山、三好各委員

らに中国は山陽と山陰に分かれており、風土や文化あるいは地域性がかなり異なっています。しかしこれまでの歴代の支部長のご尽力もあり、部会員同士のまとまりが良いことがこの支部の特徴だと思っております。これからも、この伝統を引き継いだ上で、更に魅力ある支部活動を行ってまいりたいと思っております。部会員の皆様にはこれからもご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

（岡山大学自然生命科学研究支援センター）

九州支部長に就任して

杉原 真司

第28期の九州支部長を務めさせていただきます九州大学の杉原です。前支部長同様よろしくお願ひします。今期の九州支部は大幅に若返りを図り、長老（年齢と支部活動）の私が、支部長を仰せつかった次第です。支部委員構成は、年齢順に、片平真一氏（日立アロカメディカル(株)・新）、岡島敏浩氏（佐賀県立九州シンクロトン光研究センター・2期目）、後藤稔男氏（宮崎大学・元）、川村秀久氏（(一財)九州環境管理協会・新）、土居亮介氏（久留米大学医学部・新）の計6名です。各県の支部委員経験者の皆様と協力し、新支部委員の若い力を十分に発揮して、九州支部を盛り上げていきます。

先の年次大会が九州支部の当番で終了したばかりですので、恒例である教育訓練講習会と支部研修会の充実を図ることが私の任期中のミッションです。今年度の教育訓練は無事終了しましたので、支部研修会を冬に開催すべく準備中です。

主任者 コーナー



(前列左より) 杉原, 後藤
(後列左より) 川村, 岡島, 土居, 片平各委員

遠隔地である九州・沖縄に、放射線安全管理に関する情報を収集・伝達し、地域の安全・安心に利用できるような活動を展開していく所存です。また、大学等の教育研究施設、企業等の放射線施設から地方自治体、警察、消防までの広いネットワークを作っていきたいと思っておりますので、九州・沖縄地区だけではなく多くの地区の方々にご協力をお願いします。地域の特性を生かした企画をご紹介いただくと有り難いです。支部委員一同、皆様のご協力、参加を期待しています。よろしくをお願いします。

(九州大学アイソトープ総合センター)

分科会を立ち上げて活動しましょう

中島 覚

松田尚樹 前委員長の後を継いで、第28期企画専門委員会委員長を拝命いたしました。松田前委員長のアイデアは素晴らしいと常々感じており、それをいかに実現するかが引き継いだものの使命と考えます。松田 前委員長のほかに

大倉一枝さん、山下順助さん、小野俊朗さんが勇退されます。これまでありがとうございました。今期のメンバーは、3期目となる加藤真介さん(横浜薬科大学)、島崎達也さん(熊本大学)、角山雄一さん(京都大学)、2期目となる飯本武志さん(東京大学)、高橋郁子さん(名城大学)、それと1期目の小崎完さん(北海道大学)、齋藤美希さん(弘前大学)、中西徹さん(就実大学)と中島です。先日、新旧合同の企画専門委員会を開催しましたが、やる気いっばいの各委員の活動を邪魔しないのが私の仕事と感じました。

前期の活動で大変重要なことは、分科会内規を変更されたことだと考えています。内規の変更により、分科会活動は単年度ごとの活動になり、予算申請もできるようになりました。その中で、重要度の高い時限テーマに関しては部会直轄のワーキングとして継続発展できます。このような仕組みができましたので、今期はこれを実際に動かすのが企画専門委員会の最重要の活動と考えます。そもそもこの放射線安全取扱部会(主任者部会)を設置する際、主任者の地位向上が1つの大きな目的だったと聞いております。部会員の皆様は毎日施設の管理に忙しいと思います。しかし、それをこなすだけで地位は向上したでしょうか。経営者側から見ますと、それは当然やっていただかなければならないことだと思います。特に大学のようなところだと、新しい価値を創造していくことが重要だと考えますし、それが見えなければ地位の向上は難しいと思います。新しい価値を創造するために是非この分科会活動をご利用ください。

企画専門委員会の活動は、分科会活動だけでなく教育訓練、部会評価など多方面にわたることは承知しております。そのような活動も着実にやりながら新しいことにもチャレンジしたいと思います。是非、今後の活動について各方面

よりご助言、ご意見、アイデアなどをお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

(広島大学自然科学研究支援開発センター)

役立つ“主任者コーナー”を目指して

上 蓑 義朋

2期目になりますが、引き続き広報専門委員会委員長を務めさせていただきます。前期は東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が大きく、“放射線と向き合って”のシリーズでは普通の人が無理やり向き合わされた放射線にどう対処してきたかを取り上げ、また福島市における除染の実態、ICRP ダイアログセミナーへの参加記事など、重い話題が続きました。一方、事故によって主任者が一般の方に放射線を話す機会が多くあったため、「今こそ復習！」主任者の基礎知識」シリーズ、更にもっと初心に立ち返った「今こそ復習！」主任者の基礎知識—「もっと基礎を、ここが肝」編—」を企画し、私たちの知識のおさらいをしてきたつもりです。

今期は、まずは「ここが肝」編の残りを掲載し、息長く続いている企画“この人、こんな所”もしばらく続けたいと思っています。各地の支部で行っている見学会、研修会の印象記を投稿してくださるのは心強く、支部の活動が分かるだけでなく、興味深い施設が紹介されるのも楽しみです。なかなか新しい企画は浮かびませんが、“主任者に役立つコーナー”を目指して、編集を頑張ります。

委員の構成は、小野孝二さん(東京医療保健大学)と桧垣正吾さん(東京大学)が卒業さ

れ、藤淵俊王さん(九州大学)と廣田昌大さん(信州大学)に新たに加わっていただきます。前期からは引き続き、川辺睦さん(岡山大学)、鈴木朗史さん(長瀬ランダウア(株)、現在は日本原子力研究開発機構に出向中)、吉田浩子さん(東北大学)、池本祐志さん(日本農薬(株))、宮本昌明さん(神戸大学)が支えてくださいます。

日本アイソトープ協会に集まったの委員会は年に2回開いていますが、皆様忙しく、なかなか全員揃うことができないのが悩みです。委員会では新しい企画、執筆の依頼先などを主に相談しますが、日常の打合せは頻繁に飛び交う電子メールで済ませています。近所の居酒屋での第2部の委員会は、これからも欠かさず続ける予定です。

部会名が放射線安全取扱部会に変わった後も、主任者のための広場は変わらずに欲しいという願いから、“主任者コーナー”の名前は堅持しています。読者である主任者の皆様からの寄稿をもっといただき、意見交換、情報交換の場として、広場の機能をもっと発揮できればというのが願いです。

((独)理化学研究所 仁科加速器研究センター)

法令検討専門委員会委員長を拝命して

榎本 和義

放射線や放射性物質の安全取扱に対して、歴代の“放射線取扱主任者部会”や常置委員会である法令検討専門委員会は大きな役割を果たして来られたと思っております。このたび法令検討専門委員会委員長拝命するに当たって、私に務まるものかと自問自答いたしました。放

主任者 コーナー

射線安全取扱部会”と名を変えた中で、これからの法令検討専門委員会の役割はどこにあるのかを委員の皆様や会員の皆様と考えてみることから始められればと思ひ引き受けた次第です。2名の新人も含めて委員はこれまで本部会に貢献されて来られた経験のある方々ですので、とても頼りになると思っています。

私たちの職場は放射線やラジオアイソトープの利用があってはじめての安全管理です。そのため、利用のことを考えながら、安全に最善を尽くす必要があります。放射線管理の現場では、法令からは十分にくみとれない点での判断を求められることがあります。その際、法令に逸脱しない範囲で主任者の裁量というものが発揮されるものと思います。また、法令の解釈と

してこれでいいのともあります。会員の皆様が自問自答されていることも多々あるかと思ひますので、その解決に向けて役に立てることができればと思っています。

【委員】江田正明（ゼリア新薬工業(株)中央研究所，新・会員），西沢博志（三菱電機(株)先端技術総合研究所），原 正幸（東京医科歯科大学医歯学研究支援センター），矢野和秀（(株)千代田テクノ），山田克典（(独)日本原子力研究開発機構原子力科学研究所，新・会員）

（高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター）

3版 放射線安全管理の実際

編集・発行 公益社団法人日本アイソトープ協会 【2013年10月発行】

B5判・450頁 定価 3,300円＋税 会員割引価格 2,970円＋税

放射性同位元素等の取扱いに関わる者が十分に認識し実践しなければならないことは、放射線障害防止法関係法令を基本とした放射線取扱事業所の施設および行為の両面にわたる自主管理の徹底であり、またその管理の下での放射線作業に携わる者の自己責任に基づく行為である、という考え方を本書は初版からの基本姿勢としています。2版発行後6年が経過し、その間に安全規制の合理化と見直しが進められ、記帳と放射線管理状況の見直し、事業所の廃止措置の強化、放射線源登録制度とクリアランス制度の導入、放射化物の規制等々の法令改正が行われ、また、原子力規制委員会が設置され事務局は文部科学省から原子力規制庁に移管しました。本書はこれらの法令改正の取入れのほか、全章にわたり多数の加筆修正を行い、特に「第11章 異常時の対策と措置」では、事業所を3類型に分け、火災・地震時の対処方法を全面的に書き換えました。

公益社団法人
 **日本アイソトープ協会**
Japan Radioisotope Association
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

- ◆ご注文はインターネットまたはFAXにてお願いいたします。
JRIA BOOK SHOP : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>
BookPark サービス : FAX (03) 6674-2252
- ◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。